Honda Access

2017年10月31日

スーパー耐久 第6戦 岡山
97号車 Modulo CIVIC TCRが最終戦をポール・トゥ・ウィン
98号車も5位完走でシリーズチャンピオンを獲得

2017年10月15日、あいにくの雨天の中スーパー耐久第6戦が岡山国際サーキットで開催されました。#97 Modulo CIVIC TCRがライバル勢を一切寄せ付けない圧倒的な速さで優勝。一方、完走さえすればタイトル獲得という条件のもとレースに挑んだ＃98 Modulo CIVIC TCRは途中エンジントラブルに見舞われながらも完走し、ST-TCRクラス初代王者に輝きました。

今回97号車には伊藤真一選手・幸内秀憲選手・中野信治選手の3名を起用。中でも幸内選手は岡山の出身で誰よりも岡山国際サーキットを走り込み、熟知している強者です。

雨の影響によりセーフティーカースタートとなり、スタートドライバーを務めたのが、幸内選手です。序盤、98号車やライバル勢が1分52秒前後で走る中、幸内選手はひとり1分50秒台をマーク。さらにラップタイムを1分49秒台にまで乗せる快走で、9周目には後続との差を12秒にまで広げます。幸内選手は最後までペースを落とすことなく、約1時間30分、44周を走行したところで2番手ドライバーの中野選手へステアリングを託しました。ピット作業とドライバー交代の間、いったん2位を走る#10 Racingline PERFORMANCE GOLF TCRとトップが入れ替わります。今季途中参戦した10号車は、チーム力もあってか速さを見せ、97号車との差は一時7秒にまで広がります。しかし、フォーミュラワンやインディカー、ルマンなどの参戦経験を持つ中野選手の快走で再びトップを奪還。スティント終盤には2位に1分30秒以上のマージンをつくり、33周を走行してアンカーの伊藤選手へステアリングを渡しました。最後にステアリングを握った伊藤選手は、タイヤ交換後トップを明け渡すことなくレース復帰します。ピットインにより10号車との差は10秒にまで縮まっていましたが、レース終盤にはその差を30秒にまで広げ、後半は後続との差をコントロールする余裕の走りで見事チェッカー。2輪の世界トップカテゴリーの経験をスーパー耐久でも遺憾なく発揮した伊藤選手のドライブにより97号車は最終戦をポール・トゥ・ウィン、シリーズ6戦中2勝で年間2位を達成しました。

一方98号車は70周を消化したあたりからターボトラブルに見舞われ、長いピットストップを余儀なくされましたが何とかレースに復帰しました。エンジン回転が上がらない厳しい状況の中、最後まで走り切り5位フィニッシュで9ポイントを獲得。シリーズ年間3勝、全戦完走で栄誉あるST-TCRクラスの初代シリーズチャンピオンに輝きました。

快走するModulo CIVIC TCR 97号車

スーパー耐久 第6戦岡山
表彰台

株式会社ホンダアクセス 日本営業部　広報・販促ブロック
〒352-8589　埼玉県新座市野火止 8-18-4
URL　http://www.honda.co.jp/ACCESS/
ホンダアクセス twitter http://twitter.com/Honda_Access/

Honda Access Corp.
8-18-4, Nobidome Niizashi Saitama, 352-8589 Japan

ドライバーコメント 97 号車

＜伊藤真一選手＞
最後に再び勝つことができ、本当に嬉しいです。チームメイトやチームスタッフの皆さんに助けてもらい、本当に勉強になりました。年間ランキングもワン-ツー　フィニッシュで締めくくることができて幸せな 1 年でした。こんなに楽しいレースはないですよ！もし来年もチャンスがあれば絶対に参戦したいと思います。今シーズン応援ありがとうございました！

＜幸内秀憲選手＞
チームからペースが良いのでもう少し頑張って！と言われましたが、あえて自分のラップタイムを聞くことをせず、ペースを保つことに集中しました。でも、いつピットにいれてくれるのだろう？と思いながら走っていました。レジェンドドライバーの二人からは、地元なので任す！と言われていたのでプレッシャーでしたが、無事うしろにつなぐことが出来て本当に安心しました。最後に優勝できで本当に良かったです！

＜中野信治選手＞
このような機会がなければ、幸内選手や伊藤選手と一緒に走るということがなかったと思うと、本当に楽しいシーズンでした。今回も金曜日からチームが頑張ってくれている姿を見ました。その頑張りが今日の結果だと思っています。チームには本当に感謝しています。97 号車が最終戦優勝し、98 号車が年間タイトルを獲得という最高の終わり方が出来て、とてもハッピーです！